

■日本燃焼学会創立 50 周年記念特集■

あ と が き

日本燃焼学会編集委員会委員長 石塚 悟

日本燃焼学会創立 50 周年という記念すべき時にあたり、その特集を組みました。企画当初、学会創立の経緯や燃焼シンポジウムの歴史など、多くの記事をたくさんの人に書いてもらおうと意気込み、その膨大な量から、別冊として発行する案もありましたが、定期刊行物である日本燃焼学会誌に特集の形で収録した方が結果的に図書館等に永く収蔵されるのではないか、というアーカイブ的な意義を尊重し、本号の特集となりました。しかし、分量は、通常の倍程度で打ち止めにしました。収録できなかった貴重な資料や写真、また、本来なら当然執筆をお願いすべき方々のお話は、“寄せ書き”、“思い出”、“随想”など、形式は未定ですが、順次、掲載しようと思っています。

そもそも、創立 50 周年記念の企画は、何年も前から周到に計画されていたわけではなく、むしろ、多くの方が、何十周年などという意識はさらさら持ち合わせていなかったと表現する方が適当で、The Combustion Institute の創立 50 周年記念に触発され日本の事情について意識されたことが端緒となります。一昨年 (2004 年) の 2 月下旬の頃のことでした。再録した矢木先生、秋田先生の記事にあるように、創立とされる 1955 年 5 月 25 日の総会以前、1953 年 11 月に燃焼研究懇話会が発足されており、これは The Combustion Institute 発足の 1954 年 7 月 1 日に先んじているわけですが、1955 年 5 月説とすることが妥当なので、関係者一同、ぎりぎり 50 周年に間に合ったというのが史実となります。

幸い、創立 50 周年にあたる 2005 年度は、順番で東京地区で燃焼シンポジウムを開催する予定だったので、このときに式典を行い、その報告を特集として掲載することになりました。結果として、編集委員会としては、50 周年にあたる 2005 年 5 月号ではなく、2006 年 2 月号に特集を組めばよかったので、かなり、準備に余裕ができました。

理事会における進行状況を列記すると、平成 16 年度第二回理事会 (2004 年 6 月 25 日開催) で 50 周年記念を行うことの提案と承認、第三回 (2004 年 12 月 3 日開催) で日本燃焼学会 50 周年記念特別委員会を設置し、委員長に現 The Combustion Institute 副会長で International Affair 担当の新岡嵩先生とすることを決定、平成 17 年度第一回理事会

(2005 年 2 月 25 日開催) で式典等の骨子、第二回理事会 (2005 年 6 月 25 日開催) で式典・展示・出版の具体案を、そして、同年 8 月 28 日に式次第、展示スペースなどの打合を東京で行い、いよいよ、平成 17 年 12 月 6 日の式典となったわけです。

特集号の構成は、記念式典の報告や寄せ書きの他、特別展示の収録、そして、若い会員の方々が旧学会誌“燃焼研究”に触れる機会がほとんどないことを考慮し、往時のアーカイブ的な記事を再録することになりました。

さて、式典関係ですが、角田会長の式辞、新岡委員長の報告の他、新岡先生のご尽力で Haynes 現会長の祝辞や Law 前会長の招待講演、そして、交流の密な韓国燃焼学会から本学会の論文審査委員会委員も務められている Shin 先生の祝辞が掲載でき、国際色豊かなものとなりました。Haynes 会長の祝辞には、どこで調べたのか日本人の会員でも知らないような日本燃焼研究会設立当時のことが詳しく書かれており、非常に驚かされました。招待講演をされた平野先生は、シカゴでの Bernard Lewis Gold Medal 受賞の余韻も残り、また、日本燃焼研究会を日本燃焼学会に改組された会長でもあり、生き字引的存在として執筆いただきましたが、参考論文として挙げられた“燃焼研究”掲載記事はすべて再録してあります。

次に、会長職を歴任された方に執筆していただきました。内容をいろいろと調整していただき、河野先生には、Silver Medal を受賞され我が国の燃焼研究を世界に知らしめた東大・航空学科での熊谷先生のエピソードをまじえて、そして、伊藤先生には、日本開催としては 2 度目になる札幌の第 29 回国際燃焼シンポジウムの報告をしていただきました。多くの美しい、楽しいカラー写真は、永く会員の思い出として刻まれることと確信しております。

また、名誉会員である、秋田一雄先生、木村逸郎先生にも執筆していただきました。名誉会員になられた方としては、他に、金原寿郎先生、矢木栄先生、山崎毅六先生、熊谷清一郎先生、疋田強先生、功刀雅長先生、辻 廣先生、神野博先生、磯田浩先生、がいらっしやいますが、逝去されているのが残念です。特に、ここ数年の間に、山崎先生、磯田先生、そして、辻先生と、次々に巨星が逝き、50 年と

いう時の長さを否応もなく痛感せざるを得ません。特に、辻先生は、私の恩師でもあるので、一昨年、50周年記念の話が持ち上がってまもなくから相談させていただいておりましたが、いよいよこれから具体的に動き出そうとした矢先の昨年3月に急逝され、非常な痛手でした。先生は、再録の燃焼研究第4号に示されるように、他の先生方と一致協力して燃焼研究を立て直した実績があり、その責任感の強さから、さぞかし気がかりであったものと推察されます。が、秋田先生には体調のよい時を見計らって貴重な執筆をしていただきました。また、木村先生には、祝賀会で元氣な声を聞かせていただき、とても喜ばしく、会員一同非常に心強い限りでした。

さて、日本燃焼学会の重要事項として、学会誌の発行と燃焼シンポジウムの開催があります。そこで、学会誌“燃焼研究”の記念すべき第一号に執筆した方として、当時の富士精密工業の垣見恒男氏にご執筆いただきました。また、後で第一回と命名された昭和38年度燃焼シンポジウムに参加され発表された方として、西村肇先生に執筆いただきました。第一号の目次、ならびに、昭和38年度燃焼シンポジウムの概要が掲載されている燃焼研究第六号の目次を再録しましたので御一見下さい。また、寺田寅彦に師事し物理学から燃焼に参入された金原先生のご様子などを書いていただく目的で瀬賀節子先生に執筆を依頼しました。瀬賀先生は、東邦大学を退官されて資料を丁度整理していたところで、往時の海外での学会や燃焼研究の様子などを、貴重な写真と共に執筆いただきました。

さらに、学会誌に関しては、非常に長い間ご尽力をいただいた福谷征史郎先生に旧機関誌“燃焼研究”を、現在のA4版の“日本燃焼学会誌”については、当時編集委員長であった小林秀昭先生に執筆していただきました。一方、燃焼シンポジウムの講演論文集(以前の前刷り集)に関しては、再録した燃焼研究第109号の辻先生の記事にあるように、拓殖大学の堀守雄先生(旧東京大学宇宙航空研究所辻研究室)に資料が揃っていたので、執筆を依頼しました。

しかし、創立当初、日本燃焼研究会の事務局が置かれていた東京大学本郷キャンパスの工学部5号館の狭隘さ是有名で、貴重な資料はすでに処分されてしまっていたのはつくづく残念です。再録記事にあるように日本燃焼研究会の30周年記念会があったのですが、燃焼をこよなく愛す同好会的感覚だったのか、事務的に資料を整理するにはいたっていません。せめてもの救いは、何人かの方が意識してアーカイブ的に著述を残して下さっていることです。他の学会では、10年毎、あるいは、25年の節目で祝賀会を開催し資料を整理しているので、50年分を一度に発掘させられた当事者の一人としては、これを教訓に、10年毎にこつこつと資料を整理するよう理事会に提案したいと思います。

さて、展示ですが、燃焼学会ゆかりの地本郷キャンパスで奉職されている土橋律先生に中心になっていただき資料を収集していただきました。かつて東大写真部員で、第二回の炎の写真展を取り仕切った経歴を活かし、腕を振るっ

ていただきましたが、スペースの関係で、本特集にはほんの一部の写真しか掲載できませんでした。ひとまず、ダイジェスト版を土橋先生にまとめていただいたと解釈しています。折りをみて、各写真に対応した適当な執筆者を発掘して順次、掲載できたらと思っています。

最後に、再録ですが、創立の経緯や創立当時の様子、The Combustion Institute や国際燃焼シンポジウムへの対応、機関誌「燃焼研究」の発刊、国内の燃焼シンポジウムの開催、そして、日本燃焼研究会から日本燃焼学会への移行、などに関するものを掲載しました。しかし、気になりつつ割愛した記事として下記のものがあります。

1. 第37号(1974)第15回国際燃焼シンポジウム特集号 27: B. Lewis 博士の挨拶
2. 第43号(1976)16-18: ヘレン小母さんのこと、疋田強
3. 第56号(1981)1-19: 日本の火災と火災研究の移り変わり、秋田一雄
4. 第68号(1985)総目次(第1号-第67号)
5. 第83号(1990)1-4: 燃焼の基礎研究の振興と国際協力の重要性、辻廣
6. 第84号(1990)会告1: 日本燃焼学会規約(案)
7. 第85号(1990)表紙裏: 日本燃焼学会規約
8. 第97号(1994)2: 井上二郎さんのこと、秋田一雄
9. 第111号(1998)1: 田中良一氏のご逝去を悼んで、新岡嵩

福谷先生の大偉業の一つ、総目次が第68号以降できていないのが気がかりです。A4版の日本燃焼学会誌になってからは、毎年総目次を作るにはしていますが、日本燃焼学会誌150号(2007年)あたりで総目次を作ることが直近の学会誌編集委員会の宿題のようです。が、これを書くのと次の編集委員長のなり手がなくなるかもしれません。200号(XXXX年)としましょう。

最後になりましたが、本特集にあたり大阪府立大学・瀬川大資先生には学会関係の膨大な資料の作成を、東京大学土橋研究室・武田春美女史、広島大学機械システム工学専攻・加藤由紀子女史には再録記事の作成・編集等を、土倉事務所・天野貴子女史には、尋常ならぬ校正や製版にご尽力をいただきました。ここに謝意を表します。また、展示のための資料収集や式典・祝賀会の記録などに関し、展示物一覧の表に記載の方々、ならびに、東京大学・越光男先生、手崎衆先生、津江光洋先生、三好明先生をはじめ第43回燃焼シンポジウム実行委員会の皆様には多大なるご尽力を賜り、おかげで、数多くの資料が保存される運びとなりました。これらは、折りをみて公開する予定であることを最後に記してお礼にかえさせていただきます。